

動物たちの運動会

大和村立名音小学校 三年 松本 まつもと 真愛 まな

わたしはアマミノクロウサギのクロちゃん。今日は運動会をする日なの。出場するのは、オーストンオオアカゲラのアカゲラくん、イシカワガエルのイシくん、ルリカケスのルリくん、キノボリトカゲのキノちゃん、シリケンイモリのケンくん、アマミトゲネズミのトゲくん、ザトウクジラのザトくん。みんなわたしの友達なの。いろんな種目をして、三回勝ったらゆう勝で、ゆう勝すると何でも一つだけねがいをかなえてもらえるのよ。

「それでは、一回せんのかけっこをはじめるよ。」
リュウキュウコノハズクのリュウキュウくんが言いました。

「一回せん、クロちゃんたいキノちゃん。ようい、どん。」
キノちゃんはいきおいよく、ダッシュしました。はい、はい。あつという間にゴールの山のふもとまで来ました。

「これだけはなしたら、クロちゃんはおいつけないだろう。」

と、キノちゃんは言いました。キノちゃんが山のふもとまで来たときには、ゴールまであと少しでした。ところが、クロちゃんがすごいスピードで山をかけ登っていました。

「なんでえ。」

とキノちゃんが言いました。ゴールの前でクロちゃんがキノちゃんをおいぬき、ゴールしました。

「わたしは、後ろ足が短いので、山をはやく登ることができるの。すごいでしょ。」

とクロちゃんは言いました。

「二回せんは、クロちゃんたいアカゲラくん。二回せんは、一分間でどれだけあなをほれるかで勝負するよ。」

とリュウキュウくんが言いました。

「ぼくはいつもあなをほっているから、ぜったいにクロちゃんには勝つぞ。」

とアカゲラくんは言いました。

「ようい、どん。アカゲラくんが、すごいスピードであなをほっていきます。でも、それよりはよいのがクロちゃん。」

とリュウキュウくんが言いました。

「なんでえ。」

とアカゲラくんが言いました。

「時間だよ。ふかくまであなをほったのは、クロちゃん。」

とリュウキュウくんが言いました。

「わたしは、ねるときや巣を作るために、あなをたくさんほっているの。だから、巣を作るのは、とくいなの。」
とクロちゃんは言いました。

「いよいよ決勝せんだよ。決勝はクロちゃんたいザトくん。さいごはすもうをするよ。それでは、はっけよう。」

い、のこった。」

とリュウキュウくんが言いました。すると、ザトくんは、クロちゃんにぶつかっていききました。とても大きいザトくんはクロちゃんを土ひょうの外に出す作せんです。すると、クロちゃんは、空高くまでジャンプしました。「なんでえ。」

そのままザトくんは土ひょうの外まで出ていきました。

「わたしはとても高くとべるの。」
とクロちゃんは言いました。

「勝ったのはクロちゃん。ゆう勝はクロ……。」

とリュウキュウくんが話そうとしたら、

「まってよ。ぼくも運動会に入れてよ。」

という声が聞こえました。ハブのハープです。

「にげる。ハープが出たぞ。食べられるぞ。」

みんな、いつせいににげだします。すると、

「まってよ。ぼくともあそんでよ。」

とハープが言いました。いつもこわいハープとは様子が

ちがいます。クロちゃんは、

「今日は食べようとしなない。」

ときくと、ハープは、

「もちろんだよ。ぼくも運動会に出たいんだよ。なかまにいれてよ。」

と言いました。みんなは、

「いやだよ。ハープからたくさんいじめられたんだ。一緒に遊ぶのなんていやだ。」

と次々に言いました。すると、クロちゃんは、

「わたしは、この運動会でゆう勝したわ。わたしのねがいごとを一つだけかなえてもらえるなら、ハープも入れた運動会をもう一度したい。ハープはみんなが人間からおそわれないために、人間をおそっているの。もし、ハープたちがいなかったら、今のわたしたちはきつといないはずだわ。ハープもなかまに入れてちょうだい。」

と話しました。クロちゃんの話をみんなだまって聞きました。すると、

「そうだ。その通りだ。ハープを入れてもう一回しよう。」

と声が上がりました。それからもう一度運動会が開かれました。さて、ゆう勝したのはだれでしょうね。